

## 令和5年度大船渡市社会教育委員定例会議

日時 令和6年3月15日（金） 午前10時～午前11時50分  
場所 大船渡市役所 地階大会議室  
出席者 運営委員会委員 10名  
伊藤英子委員、志田秀香委員、鈴木直樹委員、鎌田志穂子委員、  
佐藤惟司委員、富澤康磨委員、佐々木好子委員、三浦素子委員、  
志田真理子委員、渡辺信子委員  
大船渡市 10名  
協働まちづくり部長  
生涯学習課：生涯学習課長、課長補佐、係長、主事、主事補  
市民文化会館：館長  
中央公民館：館長補佐  
教育総務課：係長  
博物館：館長補佐

〔会議内容〕

### 1 開 会

2 挨拶 協働まちづくり部長

### 3 社会教育委員の紹介

### 4 報 告

報告第1号 令和5年度生涯学習事業の実施状況について  
事務局より、別紙資料のとおり説明し、意見等を伺った。

〈意見・質疑応答〉

#### 【施策1 学校教育の充実について】

・（渡辺委員）

本校においても、スクールガード、地域ボランティア及び地域コーディネーターを配置し、地域学校協働活動が推進されている。特に、図書支援活動地域ボランティアによる活動が活発に行われたことで、図書室の学習環境が改善され、児童が図書室に通う回数が増えた。また、地域コーディネーターの方に学校運営協議会委員に入ってもらい、学校と地域が一体となった学習活動ができた。今後もスクールガード等の適切な配置を望む。

→（生涯学習課長）

令和6年度以降も、必要に応じて配置の取組は進めていく。

・（鈴木委員）

成果指標において、「学校に行くのが楽しい」と答えた児童の割合 85.1%、生徒の割合 83.5%と実績値が記載されているが、全国と比較してどうなのか。

→（生涯学習課）

標記実績値は、教育委員会で抑えている数字であり、全国の割合まで生涯学習課では

把握していなかった。

・(鈴木委員)

全国との比較ができる指標なので、当市の実績と比較できるようにしてほしい。

→(生涯学習課)

承知した。

#### 【施策2 生涯学習の推進について】

・(鈴木委員)

成果指標において、「日頃、何らかの学習活動に取り組んでいる」と答えた市民の割合が18.3%で、実績値が低いと感じる。総括で「市民のニーズに合った学習機会の提供を図る」と記載されているが、令和6年度、実績を上げるための具体的な方策を考えているか。

→(中央公民館)

中央公民館では、生きがいセミナー等の各種講座を実施している。これらの講座実施後にアンケート調査を実施し、実施してほしい講座の内容の把握に努めている。

青少年体験学習事業において、ドローンプログラミング体験教室を令和元年度から実施し、一定の成果を上げたことから、令和6年度からは新たな講座を実施する予定だ。

市民IT講座については、補助事業の内容が変わる関係で、これまでと同様の内容で実施できない場合があるが、補助事業に沿った中身で講座を開催したい。

成果指標の実績が低いのは、認識しているところだが、アンケート調査により地道にニーズを把握しながら新しい講座を実施するなど、市民の方々の生涯学習の取組の向上に向けて対応していきたい。

・(鈴木委員)

非常に多くの講座を実施し、凄いことだと思うが、参加人数はまだ少ないと感じる。例えば、ポイント制など、集客に向けての方策があると良いと思う。特にも子育て世代を狙うような方策を考えてほしい。高齢者は時間に都合がつきやすいため、講座に足を運びやすい。色んな講座があるということを知らない人が多いと思うので、周知してほしい。

・(協働まちづくり部長)

成果指標の令和5年度実績値については先日公開された。令和5年度、「日頃、何らかの学習活動に取り組んでいる」と答えた市民の割合は19.3%、「日頃、生涯学習活動で学んだ成果を生かしている」と答えた市民の割合は53.8%で、どちらも若干上昇した。成果指標で高い目標を定め、内容を工夫しながら、時代に即して取り組んでいくことになる。

生涯学習・社会教育の事業のメニューも大々的に転換期にきていると感じる。それに合わせて、令和6年度以降も、ニーズに合った講座が実施できるよう検討していく。

## 5 協 議

議案第1号 令和6年度大船渡市社会教育関係団体への補助金交付について

事務局より、別紙資料のとおり説明し、意見等を伺った。

### 〈意見・質疑応答〉

・(伊藤委員)

予算額＝交付額という認識でよいか。

→(生涯学習課長)

実績補助ではないので、基本は、予算額＝交付額である。地域公民館整備事業費補助金については、2分の1補助で上限150万円である。

・(佐藤委員)

各地区公民館への補助金交付額は、どのような算出基準か。

→(生涯学習課)

その地区の世帯数、人口、直近3か年の運営経費から総合的に判断して各地区公民館の配分を算出している。

・(佐藤委員)

予算要求するが、減額されるなど様々な経緯があると思うが、地区公民館や各種団体へは、交付額の決定後の通知だけではなく、事前協議が必要だと考える。

→(生涯学習課長)

なるべく期待に沿った形にはしたいが、市全体として考えれば、必要な予算を精査することも必要。事前協議については必要に応じて対応するが、市全体の方針として、選択と集中、補助事業の見直しがある。事前の相談等はある程度させていただくが、今後も市全体の方針をもとに、市がある程度の裁量を持ちながら予算については考えていきたい。

議案第2号 令和6年度生涯学習事業計画(案)について

事務局より、別紙資料のとおり説明し、意見等を伺った。

## 〈意見・質疑応答〉

### 【施策2 生涯学習の推進について】

・(佐藤委員)

カメラホールは、公民館という位置付けなので、1階ホールで物の販売ができない等自由に使えない部分がある。また、カメラホールは駐車場が狭く感じる。パンフレットも古い。予算の問題もあるだろうが、パンフレット等で宣伝を強化してはどうか。

→(中央公民館)

社会教育施設であるカメラホールや地区公民館は、販売事業については、社会教育法により制約があったが、国から示された内容により、ある程度の販売事業ができるなど、柔軟な対応ができるように変化してきている。これについては、中央公民館から各地区公民館に対して通知している。

また、令和6年度は、カメラホールのパンフレットを作製予定である。カメラホールは稼働率が高い施設である。指摘のあった駐車場の拡大の対応については難しい部分ではあるが、利便性の向上に向けて考えていきたい。

・(協働まちづくり部長)

令和6年度から、市民文化会館の運営が指定管理者に移行する。

市民芸術祭については、これまで実行委員会を設置していたが、今後は、指定管理者で企画して進める予定だ。舞台芸術鑑賞会についても、令和5年度から住田町と共催し、一緒に鑑賞事業を実施することになった。当市と住田町は、様々な事業の中で連

携して実施していく計画があり、それに基づき、令和6年度は小学生を対象に劇団四季の鑑賞会を実施する。芸術文化振興事業についても、指定管理者の方で企画して実施していくことになる。

また、市民文化会館の日常サービスについて、チケット販売、館内の案内方法の改良も予定している。今後、市民文化会館のサービスの向上、多種多様な鑑賞事業が展開される。現在、指定管理者とも事前の打合せを進めているところである。

図書館についても、令和4年度から指定管理者に移行している。それに伴い、図書館の司書が増員し、セルフ貸出機械の活用、図書館の公式HPの設置など、様々なサービスの向上に繋がった。アンケート調査においても、市民の満足度が上がっている状態である。

市民文化会館の運営が、指定管理者に移行することをご承知おきいただきたい。

・(伊藤委員)

図書館事業について、読書会が新しく加わったが、どのようなものか。

→(市民文化会館長)

読書会については、これまで継続して実施していたが、新型コロナウイルスの関係でお休みしていた。これについても、状況を見て取組を再開していきたい。

なお、おはなしパレード、ブックスタート事業、おたのしみ親子劇場等により、様々な世代に図書に触れていただく機会としていただきたい。

・(佐藤委員)

市民文化会館の指定管理について一番心配なのは、市民芸術祭など、市民が使用する際の減免についてである。十分に配慮しながら市民が使いやすくなるようにしてほしい。

→(市民文化会館長)

指定管理者とは4月からの指定管理に向け、協議を重ねているところである。利用方法及び減免については、現状のサービスを維持することを基本としている。指定管理者の創意工夫で更なるサービス向上を図っていきたい。指定管理を受ける業者は、全国で会館施設の管理運営している業者である。これまでの成功事例を大船渡市に落とし込めるかも含めて、共に協議していきたい。

### 【施策3 生涯スポーツの振興について】

・(鈴木委員)

大船渡アスリート応援団の取組の中の、三陸・大船渡パーフェクトナイターの開催の際に、市民に観客席20席提供とあるが、座席数は増やせないのか。

また、陸前高田市と連携して「三陸」をもっとアピールできないか。

→(生涯学習課長)

座席については、千葉ロッテマリーンズとのオフィシャルスポンサーシップ契約権益によるものであり、座席数をこちらで指定するのは難しい。また、令和5年度と令和4年度の募集では20席の枠内に収まっている。市民観戦事業において、募集した方の宿泊費や移動費は市から負担しないため、市民の方々にとっては、応募のハードルが高いものと捉えている。今後も、宿泊費を市で負担する予定はないので、20席の提供は妥当な数だと考える。

陸前高田市との連携については、令和4年度、当時の協働まちづくり部長から共催により実施しないか陸前高田市に提案したが、陸前高田市の都合上、難しいとの回答

をいただいた経緯がある。陸前高田市では、佐々木朗希選手を応援する会が設立しているが、あくまで任意の団体であり、市として特段対応はしていないとのことだ。

令和5年度は、大船渡市から協賛試合に係る情報提供はしたが、共催の話はあえてしなかった。ただ、大船渡市アスリート応援団の発信をする中で、佐々木朗希選手を応援する会とSNSで繋がる等の交流は行っている。

・(佐藤委員)

生涯スポーツの振興について、指定管理者であるスポーツ協会とスポーツの推進を図っていると思うが、体育に対する見方を深めてほしい。体育というのは運動すること、運動することとは健康年齢を伸ばすこと。指定管理業務の内容について、参加人員の問題だけではなく、運動する人を少しでも増やせるように考えてほしい。

また、指定管理業務について十分に把握して、事業を展開する必要があると考える。

→(生涯学習課長)

学校部活動の地域移行については教育委員会を中心に取組を進めているが、学校の部活動を地域でやるのか、学校から部活動を切り離すのか、国から具体的に示されていない。実施方法については、それらを踏まえた上で進めていく必要がある。その中でスポーツ協会の役割も大きくなっていくが、スポーツ協会がすぐに受け皿の役割を担える訳ではない。行政が進めている地域移行と並行して、受け皿づくりも考えていかなければならない。スポーツ協会の考え方も踏まえながら、検討を重ねていく。

#### 【施策4 地域の歴史・文化資源の継承について】

・(鈴木委員)

資料に、伝統文化の継承、映像化による記録保存とあるが、大変良いと思う。吉浜のスネカと崎浜のたらじがねは、成り手がおらず、存続の危機である。市内のお祭りについても現状維持が難しい状態であるため、準備の段階から映像で記録し、博物館で保存していただくと非常に助かる。

今度、立根でお祭りがあるが、コロナの影響もあり実質8年ぶりである。小・中学生は経験しておらず、着物の着方、踊り方、物の準備等、映像が無いと大変だと痛感している。各おまつりを映像により記録してほしい。

→(教育総務課)

映像化による記録保存について、現時点で計画的に実施するという段階には至っていない。ただ、吉浜のスネカについては、ユネスコ無形文化遺産ということもあり、取材を受けることがある。その際に、映像を共有したり、こちらでも一緒に記録を撮るなど対応した。準備段階からの記録は、伝承のために重要ではあるが、団体それぞれの事情もあるため、有効な方法をとっていきたい。その他の郷土芸能については、少子高齢化ということもあり、記録保存が伝統文化を残していくための有効な手段だと考えるが、現時点で計画的には実施していない。

・(佐藤委員)

貝塚の取組は非常に意義のあることだと考える。大船渡に来ればこのような貝塚が見ることができるというように宣伝し、観光と連携した周知ができれば良いと考える。大船渡にある貝塚は歴史的に価値ある。こういった事業を引き続き展開していただきたい。

→(教育総務課)

ここ数年、教育総務課と博物館とで連携しながら各種遺跡の普及活用の事業を実施し

てきた。令和5年度は、出張展示をおおふなポートで行ったのが初めての試み。たまたま、みちのく潮風トレイルのツアー客の方がお見えになった。今後も、観光事業と連携して、こういったチャンスを捕まえて、大船渡の貝塚について内外に知っていただきたいと考えている。

・(富澤委員)

埋蔵文化財について、下船渡貝塚の付近に標識が建っているが、この標識に、どんな貴重な物が入っているのか記載してはどうか。熊野神社の調査関係についても同様であり、より興味をもってもらえるのではないか。

また、大船渡市には今出山金山などの金山跡がある。そこをピックアップしてはどうか。そんなところにも目を向けていただきたい。

→(教育総務課)

蛸ノ浦貝塚、大洞貝塚及び下船渡貝塚が市内の国指定史跡である。史跡には、保護がかなり厳重にされている所もあり、下船渡貝塚については、調査がされたのが、現在の国道45号の壊された部分である。その時の資料は、現在博物館で活用されている。現在、草が広がっている部分は貝塚が広がっていることが分かっているが、詳細についてはまだ分かっていない。内容の把握や分かりやすい整備は、これから長い時間をかけて取り組んでいきたいと考えている。

熊野神社についても、貴重な文化財が残っている。何かの形で広く知っていただければ、大船渡の新しい魅力や価値に気付いていただける機会になる。

今出山金山について、現在、教育総務課の取組で関わってくる部分は多くはないが、三陸ジオパークのジオサイトの1つである。新聞報道でも、近年、民間の団体からの募金も活発になってきているところである。大船渡の歴史の中でも魅力を感じる方が多いところなので、色々考えていきたい。

## 6 その他

・(協働まちづくり部長)

皆さんからいただいたご意見は、今後の事業推進にそれぞれ考慮していく。

私からは、庁内で取り組んでいる内容について2点紹介する。詳細については、市公式ホームページに掲載されている内容なので、お目通し願う。

1つ目は、令和6年2月に、令和9年度までを計画期間とした、「大船渡市デジタル田園都市国家構想総合戦略」を新たに策定した。これは、行政や地域、産業など、各方面でのデジタル化の推進による、社会課題の解決、生産性の向上、大船渡市の認知度を高めて、魅力をアピールするシティプロモーションの推進に取り組み、人口減少化での心豊かな暮らし、持続可能なまちづくりを目指していくという計画である。

主な施策としては、水産業、食産業の競争力強化、新産業の創出、起業の支援、交流人口の拡大、移住定住の促進、子育て支援、協働のまちづくりなどである。どの分野においても、デジタル化の取組を強く意識して推進していかなければならない。全国的、各地方において、デジタル化を進める大きな流れが生じている。当市の各種社会教育事業においても、デジタル化の概念や実践的なものをより一層意識して、推進していかなければならないと考えている。

2つ目は、市の行政経営の取組についてである。当市では、人口減少の進行により、自主財源の確保が厳しさを増すとみられている。そこで、歳入規模に応じた、財政運

用を行っていくことを目指し、令和4年度の途中から、「大船渡市行政経営方針」を作成し、継続的に、施策の選択と集中、事業の廃止・縮小の取組を強力に進めている。重点施策については、地場企業の振興、協働のまちづくりの推進、男女共同参画の推進、子ども子育て支援の充実、デジタル化の推進、シティプロモーションの推進としている。

施策の重点化を図る動きは、これからますます強まっていき、重点化事業以外の予算の見直しによる他の事業の縮減傾向は続いていく。市民の皆さんにご協力いただく部分も多々でてくることになる。市内でここ2、3年、全般の事務事業の見直しの取組も行っている。各種事業について、令和6年度、更に見直しを検討し、最小の経費で最大の効果を出していく。令和7年度以降、大幅な見直しの可能性もあるところである。

時代の変化や時代の要請、市民ニーズの変化に対応した各種事業の行政事務を進めていくので、一層のご支援、ご協力をお願いします。

## 7 閉 会